

NPO 法人 科学技術者フォーラム 平成 30 年 12 月度見学会報告
「朝日新聞 東京本社 見学会報告」

1. 見学日時：12 月 21 日（金）10 時 30 分～12 時 30 分
2. 見学先：朝日新聞 東京本社（東京都中央区築地）
3. 見学者：37 名
4. 見学の概要

1. 編集局について

東京本社の 5 階に編集局があり、編集長達が机を持つエリアだけがガラス張りの部屋になっていた。しかし、各部には仕切りが無い。これは『部ごとの風通しを良くするため。』とのこと。

4 階には地域面編集部があり、関東近辺の県ごとに部署があったが、取材記者は現地で事務所を構えており、ここに在籍しているのは紙面を組む編集部員だけと伝えられた。

4 階、5 階ともに部屋で仕事をしている職員が少ない。これは、編集局員は午後出社のためとのことだったが、考えてみると、取材記事が集まって来るのは午後であるため、合理的な仕事のやり方と考えられる。

2. 新聞記者について

新聞記者には 2 種類あり、現地取材をする取材記者、紙面を組んだり、校閲して点検したり取材記事を新聞する編集記者がいるとのこと、個人的には全く知らなかった。

取材記者は筆記用具、パソコン、携帯電話、デジカメが必需品とのことだった。

また、1961 年までは取材記者が記事、写真を本社に送るため、伝書鳩を使っており、本社の屋上で 450 羽の鳩を飼っていたとのことだった。

3. 紙面について

新聞の第 1 面右上を『頭』、と呼び、そこに一番重要な記事を載せるとのこと。左上を『肩』、頭の下の記事を『腹』ないし、『臍』と呼ぶとのこと。

また、一面に朝日新聞と記載されているすぐ下に、当日の責任編集長の名前が記載されている。尚、編集長は 5 人いて、毎日持ち回りになっている。

4. 工場

東京築地本社は地下 1 階から地下 4 階が新聞の印刷工場になっている。ここで東京 23 区と築地の周囲の新聞を印刷している。朝刊は一時間に 9 万部の新聞印刷が可能。

印刷機は地下 4 階から地下 1 階までつながっており、地下 1 階で梱包され、トラックにて新聞配達所に運ばれる。

東京本社管内全体の工場で、1 日約 300 万部の新聞を印刷しているとのことだった。

5. 印刷について

1980 年まで、文選工が活字を拾い、それを組み上げて、柔らかい紙に印字し、それに鉛を流して鋳型を製造していた。この鋳型は 18kg もの重さがあった。

現在ではデータを2枚セットのアルミでできた刷版板（1枚 360g）に印字してそこに植物性インクと水を流して、ブランケットにインクを移し、紙に印刷をする方法（オフセット印刷）を行っている。

6. 質問

質問には洒水記者（社会部次長）が答えてくれた

* 取材、インタビュー前の調査

取材相手の著書等を調べたうえで、取材に行く。

* 東日本大地震に対する報道で、どのくらい引き潮があったら、どのくらいの津波が来たか報道できなかったか。

科学医療部とも話をしたが、一概にどのようになるとは言えない。間違いが起こるので、報道はできなかった。

* 有効な再発防止策も報道して貰いたい。

報道に関われる人員には限界があり、力不足と認識している。

* 地震の時に、塀が壊れたが、学校等のものだけの報道が主で、民間の報道はなかった。新聞では、データが揃えられるものを報道するので、どうしても、データが集めやすい公共機関で起こったものになってしまう。

* 新聞の公共性について

新聞業界として、どのようなものが公共性であると、決まっているわけではない。各新聞社の判断になる。朝日新聞としても明文化されているわけではない。

* 考え方

考え方が一方向性と言う訳ではない。権力者側ではなく、弱者に寄り添いたいと考えている。

7. その他

科学技術者フォーラムが朝日新聞東京本社を見学したことを、12月22日の朝刊東京地域版に掲載された。

朝日新聞にはありがとうございました。

（報告者：碓）